

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
雲取賞	2019/2/7	SIII	大井	1800m	ミドルペース	稍重	能力比較

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	アトムズスパーク	牡3	55	森	Musketier	ハンプトン系	During	ナスルーラ系	C	A	C	B	B	B	×1	
	2	メイレー	牡3	55	吉原	ダンカーク	ミスプロ系	サクラバクシンオー	ナスルーラ系	C	A	B	B	B	B	△3	
2	3	マイコート	牡3	56	石崎駿	ロジユニヴァース	サンデー系	アラムシャー	ノーザン系	C	C	B	B	C	B	△2	
	4	レオズハウライト	牡3	55	笹川	バトルブラン	ミスプロ系	ネオユニヴァース	サンデー系	C	B	B	C	C	B	×5	
3	5	クラビテーション	牡3	56	今野	ベルシャザール	ミスプロ系	エンドスウィープ	ミスプロ系	B	B	A	B	B	A	○	
	6	ヒカリオース	牡3	57	瀧川	フリオーソ	ロベルト系	サウスヴィグラス	ミスプロ系	B	B	B	B	B	B	▲	
4	7	オーシャンブラック	牡3	56	西	ストロングリターン	ロベルト系	ジェニユイン	サンデー系	C	C	B	B	C	B	×2	
	8	ラプラス	牡3	57	矢野	カジノドライブ	ナスルーラ系	サンデーサイレンス	サンデー系	B	A	B	B	B	B	△1	
5	9	アイオロス	牡3	55	赤岡	ダンカーク	ミスプロ系	ゴールドアリュール	サンデー系	C	A	C	C	C	B	×8	
	10	アギト	牡3	56	左海	トゥザグロリー	ミスプロ系	ブライアンズタイム	ロベルト系	C	B	B	C	C	B	×6	
6	11	ミュウチャリー	牡3	57	御神本	パイロ	ナスルーラ系	ブライアンズタイム	ロベルト系	A	A	B	B	A	B	◎	
	12	サーブルグロワール	牡3	56	張田	エスポワールシチー	サンデー系	Malibu Moon	ナスルーラ系	D	C	D	C	D	D		
7	13	マムティキング	牡3	56	柏木	バトルブラン	ミスプロ系	デュランダル	サンデー系	C	C	B	C	C	B	×4	
	14	ハルディネロ	牡3	55	真島	ダンカーク	ミスプロ系	サンデーサイレンス	サンデー系	C	A	B	C	B	B	×7	
8	15	カジノフォンテン	牡3	55	本田	カジノドライブ	ナスルーラ系	ベストタイアップ	ノーザン系	C	B	B	C	C	B	×3	
	16	サージュ	牡3	55	酒井	サクラプレジデント	サンデー系	Cure the Bules	ターントウ系	D	C	B	C	C	C		

隊列図	見解	ラップタイム
アトム オーシ ハルデ サーブ カジノ サージ マムテ ミドルペース	<p>雲取賞は昨年まで大井1600mの準重賞として行われていたが、今年からSIII重賞に格上げされ、距離が1800mに変更。これによりクラシック三冠の前哨戦が京浜盃のみではなく、雲取賞→京浜盃→羽田盃と続く形になった（雲取賞からスタートするとローテーションが過酷ですし、馬の成長を促すという意味でもこの時期はもう少しゆったりと始動した方がいいとは思うんですけどね…）。重賞に格上げされたことにより、全日本2歳優駿でも3番人気に推されたミュウチャリー、ハイセイコー記念勝ち馬ラプラスが早くも始動。今年の南関東クラシック路線を占う意味でも目の離せない一戦になったといえるだろう。果たして今年の南関東クラシック路線に有力馬として名乗りを挙げるのはどの馬なのか。早速予想にいきましょう。</p> <p>本命は<b>ミュウチャリー</b>が巻き返す。前走全日本2歳優駿でも期待したが、スタートで出遅れて流れに乗れず。加えて前半800mのラップが12.2- 12.1- 12.4- 14.0で道中に14.0を計測するスローペース。2番手追走のノーヴァレンダが押し切ったのを見ても、差しに回った本馬には明らかに厳しい競馬だった。（以下省略）</p>	

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	アトムズスピーア	×1	常識的に厳しい距離延長だが、前走イヌワシ賞は最後まで伸び続けており、距離が伸びても対応できそうな雰囲気はあった。水曜日の馬場傾向だと行き切れればチャンスがある。逃げれば怖い。		
	2	メイレー	△3	大井1800mの白鳥特別でマムティキング、マイコートらを下して勝利。楽逃げを打てて展開に恵まれた面はあったものの、本馬自身はまだキャリア4戦の身。「展開に恵まれた」の一言では片づけられない方がいだろう。当初、上位に評価する予定ではなかったが、現状の内有利の馬場を考えると、軽視は禁物だ。		
2	3	マイコート	△2	南関東に転入後、白鳥特別3着、ニューイヤークップ3着と安定した走り。北海道時代からどうも走ることに前向きではない印象を受けるが、逆にいえば、それでもこれだけ走っているのだから能力が高いのだろう。ロジユニヴァース×アラムシャーの血統でスタミナ豊富。大井1800mは合う。		
	4	レオズハウライト	×5	一気にクラシック戦線の有力馬に名乗りを挙げて不不思議ではない馬。デビューからの3戦は1200m以下のレースに出走し、初のマイル戦になった前走が匠巻の勝ちっぷり。勝ち時計はハイセイコー記念でも3着に値するほどで、さらに余力があったことを考えると、能力は重賞級と見ていい。		
3	5	グラビテーション	○	鎌倉記念ではミューチャリーに敗れ、ハイセイコー記念ではラプラスに敗れているが、デビュー以来、【1.0.3.0】と複勝率100%、上りはすべて3位以内と堅実に走っている馬。2歳や早期の3歳戦ではこの手の勝負付けが済んだ馬が過小評価されることが多く、本馬はいかにも盲点になっている。		
	6	ヒカリオーソ	▲	直近2走に関しては能力を出し切れていない。一見、マイル向きのように見えるが、フリーソ×サウスヴィグラスの底力あふれる血統。大井コースでこそ本領発揮かもしれない。馬体重が徐々に増えていること、調教の動きが抜群にいいことを考えると、ここに来て一段と力をつけている可能性もありそう。		
4	7	オーシャンブラック	×2	行き切れるかがカギも、逃げれば粘り込みのチャンスあり。前走カナリア特別の走破時計1分44秒9は、ハイセイコー記念でも揭示板級。逃げた時は2戦2勝。決して侮ることは出来ない。		
	8	ラプラス	△1	ハイセイコー記念が着差以上に強い競馬。能力だけならミューチャリーに次ぐ存在だが、ゲートセンスの悪さがやはり気になるところ。前走ハイセイコー記念はたまたま出たが、それまでのレースではすべて出遅れており、今の馬場で後手後手に回ると、どんなに能力があっても差し届かず終わるかもしれない。		
5	9	アイオロス	×8	前走川崎ジュニアオープンがメンバー的にやや物足りないものの、転入初戦だったことを考えれば、まだ上積みはありそう。中途半端に控えると伸び負けしうのだが、赤岡騎手が水曜日の的場騎手&シュテルングランツのように玉砕覚悟で飛ばした時は少し怖い。		
	10	アギト	×6	2走前のニューイヤークップで大出遅れをかましながらか勝ち馬トーセングネットから1.2秒差なら悪くない内容。終いは確実に脚を使うしびといタイプ。母父プライアンズタイムで、大井の外回りは合っているだろう。あとは展開、馬場の後押しがあるかどうか。		
6	11	ミューチャリー	◎	前走全日本2歳優駿でも期待したが、スタートで出遅れて流れに乗れず。加えて前半800mのラップが12.2-12.1-12.4-14.0で道中に14.0を計測するスローペース。本馬自身は後方から上り2位の脚をマーク。6着に敗れたとはいえ、改めて能力の高さを示した一戦だった。力が違うはず。		
	12	サーブルグロワール		近走のレースぶりから1800mでは息が持たないだろう。1200m以下の距離で買いたい。		
7	13	マムティキング	×4	2走前に同条件で行われた白鳥特別ではスローペースの中、大外一気で2着に好走。今回、当時の勝ち馬メイレー、3着マイコートがそれなりに人気を集めているが、一番強い競馬をしたと思える本馬が前日段階でニケタ人気は明らかに不当だろう。		
	14	ハルディネロ	×7	平和賞4着、全日本2歳優駿9着と結果を残せていないが、大井では2戦2勝。人気が一気に急落しそうな今回はやや不気味といえるか。今の馬場で強気に動ける真島騎手もいい。		
8	15	カジノフォンテン	×3	前走白鳥特別で4着に敗れたが、敗因は明らかに騎手。本田騎手に乗り替わり、パフォーマンスを上げてくる可能性は大いにあるだろう。当初、もう少し上位に評価したかったが、内有利の馬場で8枠15番はマイナス。レース下手な面があるので、16頭立ての多頭数も向かないか。		
	16	サージュ		追って味があり、人気以上には走りそうだが、近2走でカジノフォンテン、アギトに完敗。さすがに重賞で上位争いは難しいか。		